

ロイ・チャップマン・アンドリュースの日本と朝鮮での足跡 Traces of Roy Chapman Andrews in Japan and Korea

○宇仁義和 (東京農業大学), 櫻井敬人 (太地町歴史資料室)

Yoshikazu Uni (Tokyo University of Agriculture) and Hayato Sakurai (Taiji Historical Archives)

【アンドリュースとは誰か】

ロイ・チャップマン・アンドリュース Roy Chapman Andrews (RCA) は、ニューヨークにあるアメリカ自然史博物館 American Museum of Natural History (AMNH) の技術補佐員から学芸員となり、最後は館長を務めた人物である。人生最高の舞台は自動車を駆使したモンゴルでの恐竜発掘探検であり、映画の主人公インディ・ジョーンズのモデルといわれる(写真1)。



写真1. R.C. アンドリュース



写真2. R.C.A 協会ウェブサイト

日本では彼の知名度はさほど高くないが、アメリカでは自国が生んだ20世紀の探検家として名高く、出身地のウィスコンシン州では、1999年に彼の功績をたたえる「ロイ・チャップマン・アンドリュース協会 Roy Chapman Andrews Society」が設立されている(写真2)。

彼は日本でヒゲクジラの科学研究を行なったパイオニアであるが、詳しいことは不明であるので、手始めに日本と朝鮮での足取りをまとめた。

【日本と朝鮮での行動】

彼の旅程と調査内容を一般向け読み物として公開された『Whale Hunting with Gun and Camera』によれば、最初の訪日は1910年、翌年まで国内で調査を実施、一時帰国後の1912年には朝鮮半島に渡り、南東部にある蔚山でコククジラの調査を行なっている。入国地は長崎、船で下関から瀬戸内海を抜け和歌山県南端の紀伊大島に到達、1か月を過ごす。その後、宮城県鮎川にある捕鯨基地でイワシクジラを中心に本格的な調査を実施した(図1)。調査協力者は第一に東洋捕鯨株式会社であり、下関と東京の事務所にも立ち寄っている。紀伊大島や鮎川ではノルウェー人砲手が活躍中で、彼らや地域の人との交流もあった。「ya-ra-cu-ra-sa」という仕事歌が両地から記録されている。

【今後の調査】

彼の滞在は短期間であったが、コククジラとイワシクジラのモノグラフを刊行、日本の近代鯨類学への影響は絶大だった。しかし、この時代の実験者との交流は不明であり今後の課題となった(図2)。

【おわりに】

2010-2012年は日本と韓国におけるアンドリュース100年記念の年です。タイミングよく科研費が得られ、1) アンドリュースの日本での活動、2) 日本の近代鯨類学草創期、3) 「第一鯨学」の展開、4) マリンランド導入の歴史を調べます。いろいろ教えていただければ幸いです。

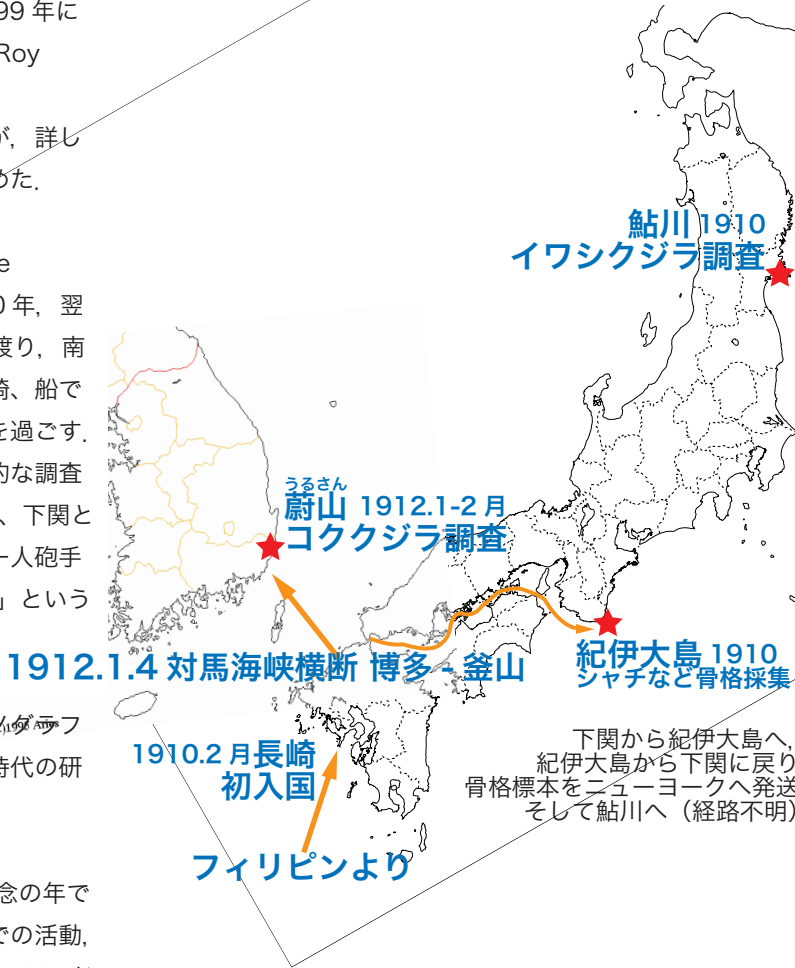
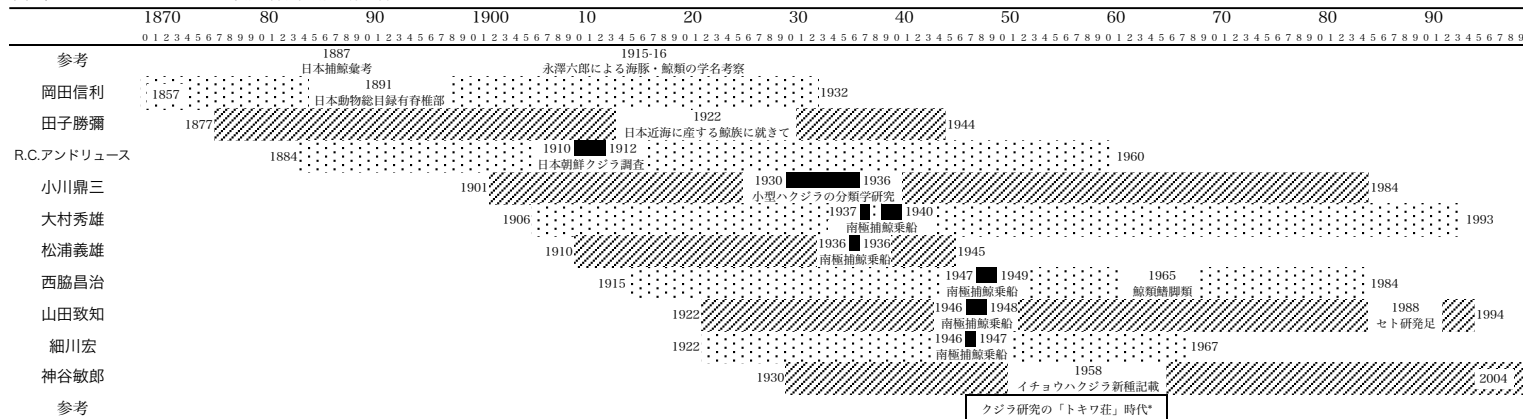


図2. R.C.アンドリュースと近代鯨類学初期の研究者



*大木坂京魚, 2003, クジラ研究の「トキワ荘」時代, 鯨研通信, 420: 6-16.